

【川崎河港水門】 (国の登録有形文化財)

昭和3年(1928)完成、我が国初の河港水門。市の中央部を縦貫する運河・港湾計画の一環として建設、その後の社会情勢の変化から、昭和18年計画は廃止、水門のみが残った。頭頂部には梨やブドウ・桃など、かつての川崎の名産が刻まれている。

【京急発祥の地碑】

明治32年(1899)、東日本(日本では3番目)最初の電気鉄道が六郷橋～京急大師間を走行。その碑が川崎大師駅に建つ。

【川崎大師】 (真言宗智山派・大本山金剛山金乗院平間寺)

開創は大治3年(1128)、開基は尊賢上人、創建功德主は平間兼乗。諸々の災厄を消除する厄除大師。総本山は京都の智積院。海から神仏が流れ着く「神仏漂着譚」で、平間兼乗父子が海から太子像を拾い上げたことから平間寺と、また下平間村の称名寺が真言宗から一向宗に改宗の際太子像を多摩川へ流しが下流の漁師の網に掛かり、寺を建立安置、旧地の平間村から平間寺と。

【瀋秀園 (しんしゅうえん)】

中国の瀋陽市が友好都市提携5周年を記念し寄贈。昭和62年完成。大師公園内の面積4900m²の敷地に、悠久な歴史と伝統に育まれた中国庭園技術の奥義をきわめた瀋陽市のすばらしい庭園という意味で「瀋秀園」と名付く。

【ねずみ島】

大師橋下流の小さな島。内務省の多摩川治水河川改修の計画に、最後まで応じなかった殿町の人の梨畑、周囲を掘られ満潮になると海潮が浸透し農作も出来ず、放置されやがて葦が茂り野ねずみの住み家となり、いつしか「ねずみ島」と呼ばれる。

【穴守稻荷】

御祭神 豊受姫命。文化元年の頃(1804年頃)鈴木新田(現在の空港内)開墾の際、台風や高波によりしばしば大きな被害を受けたので、堤防に穴があかないよう稻荷明神に祈願したのが始まりとされる。昭和20年、米軍による羽田空港拡張の為、従来の鎮座地より48時間以内の強制退去を命ぜられ、同年9月、現在地に遷座。急な移転を余儀なくされた神社は、霊験とその地を開懇した人達の思いが、今なお天空橋駅の近くに一の鳥居を残す。